

研究活動 聖泉大学 人間学部
(2012年1月～2012年12月)

有山篤利（教授）

論文等

- ①地域力循環型キャリア教育プログラムに（CLCP）に関する実践報告，共著，聖泉論叢第19号
- ②発見型柔道学習における受け身の上達と投げ技マイスターの活用効果，共著，聖泉大学スポーツ文化研究所紀要第4巻第1号
- ③本学特別支援クラブに関する実態調査報告，共著，聖泉大学スポーツ文化研究所紀要第4巻第1号
- ④キャリア教育の取り組みと大学生のキャリア意識の変化の関連についての追跡調査Ⅰ（自己効力感を中心に），共著，聖泉論叢第19号
- ⑤キャリア教育の取り組みと大学生のキャリア意識の変化の関連についての追跡調査Ⅱ（進路決断不安を中心に），共著，聖泉論叢第19号
- ⑥小学校体育において児童に身につけさせるべき基礎的動きとは？，共著，京都教育大学教育実践研究紀要第12号
- ⑦投げ技マイスターで柔道の基礎的運動感覚を養う，単著，体育科教育第60巻第6号
- ⑧武道必修化と柔道の安全をどう考えるか，単著，体育科教育第60巻第7号

特許等

- ①柔道指導教具「投げ技マイスター」の開発（特許出願番号2011-156186）

学会発表等

- ①今，私たちは柔道授業で何を教えるべきか—武道必修化時代の柔道学習—，共同，第17回日本体育科教育学会
- ②受身及び投技学習補助教具の有効性の検証，共同，第45回日本武道学会
- ③地域力循環型キャリア教育の取り組み，単独，第34回日本キャリア教育学会シンポジウム

李艶（教授）

論文

共著（第一著者）

「キャリア教育の取り組みと大学生のキャリア意識変化の関連についての追跡研究Ⅰ—自己効力感を中心に—」『聖泉論叢』19号 2011年3月 P.1-P.12

共著（第一著者）

「キャリア教育の取り組みと大学生のキャリア意識変化の関連についての追跡研究Ⅱ—進路
決断不安を中心に—」『聖泉論叢』19号 2011年3月 P.13-P.22

学会発表**単著**

ラウンドテーブル 話題提供者

「移行・越境する学びを「動機づけ」はいかに説明するか」

日本発達心理学会23回大会（名古屋国際会議場にて）2012年3月10日 論文集 P.61

単著

「キャリア意識尺度の作成について（その1）—日本社会人と大学生を対象に—」

日本心理学会76回大会（専修大学生田キャンパスにて）2012年9月11日

研究会活動

李艶代表とした「文化と心理学」研究会が日本心理学会研究会に認められた。2012年9月
から「公益社団法人日本心理学会文化と心理学研究会」として活動することができました。
研究会は定期的に研究活動を行っている。

多胡陽介（講師）**論文（単著）**

メトロノーム聴覚刺激によるドリブル動作の時間変化について

—フィールドホッケーのジグザグドリブルを用いて—

聖泉大学スポーツ文化研究所紀要第4巻第1号 pp.27-39 2012年3月

事例報告（共著）

本学特別支援クラブに関する実態調査報告

聖泉大学スポーツ文化研究所紀要第4巻第1号 pp.41-50 2012年3月

学会発表（単独）

メトロノーム聴覚刺激によるドリブル動作の時間変化について

—フィールドホッケーのジグザグドリブルを用いて—

日本体育学会第63回大会

（於：東海大学 日本体育学会第63回大会予稿集 pp.257 2012年8月）

谷口（藤本）麻起子（講師）

論文

- ・過去の否定的経験と大学／大学院教育に関する調査研究（2）
金網知征・谷口（藤本）麻起子 甲子園大学紀要, No.39, 91-103, 2012.
- ・TATの反応領域からみた摂食障害者の心理的特徴
聖泉論叢, No.19, 63-76, 2012.
- ・心理療法における多重関係の問題について
聖泉大学カウンセリングセンター紀要, No.2, 3-10, 2012.

学会発表

- ・過去の否定的経験と大学・大学院教育に関する調査研究
一専攻志望動機についてのインタビューデータの予備的検討
藤本麻起子・金網知征
日本心理臨床学会第31回秋季大会（愛知学院大学）2012年9月
- ・摂食障害の人との心理療法におけるイメージの役割
第16回日本摂食障害学会学術集会（政策研究大学院大学）2012年10月
- ・過去の否定的経験と大学・大学院専攻志望動機との関連についての研究（2）
金網知征・藤本麻起子
日本教育心理学会第54回総会（琉球大学）2012年11月

山口隆介（講師）

論文等

2012年6月23日（土）・24日（日） 西洋中世学会（於慶應義塾大学三田キャンパス）にて
ポスター報告

報告題

「トマス・アキナス『神学綱要』における人間論」

2012年11月10日（土） 中世哲学会（於文教大学）にて口頭発表

発表題

「トマス・アキナスの「祈り」概念」